

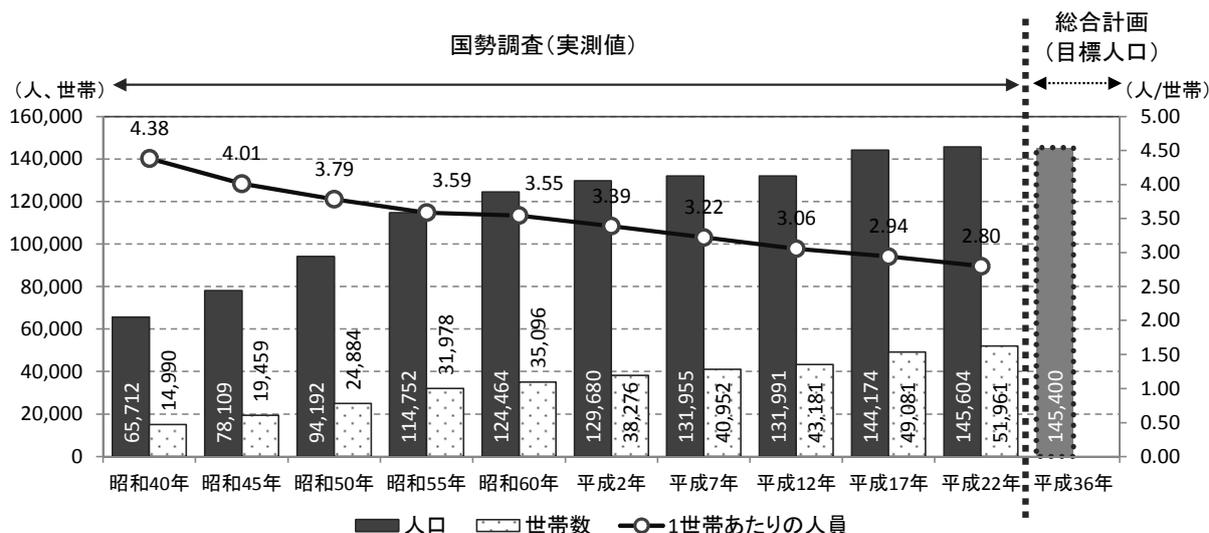
第2章 各務原市の状況

1. 人口・世帯数

① 人口・世帯数の動向

各務原市の人口・世帯数は平成22年現在、人口は145,604人、世帯数は51,961世帯となっています。人口・世帯数は増加し続けているものの、近年は減少に転じており、総合計画における平成36年の目標人口は145,400人と掲げています。

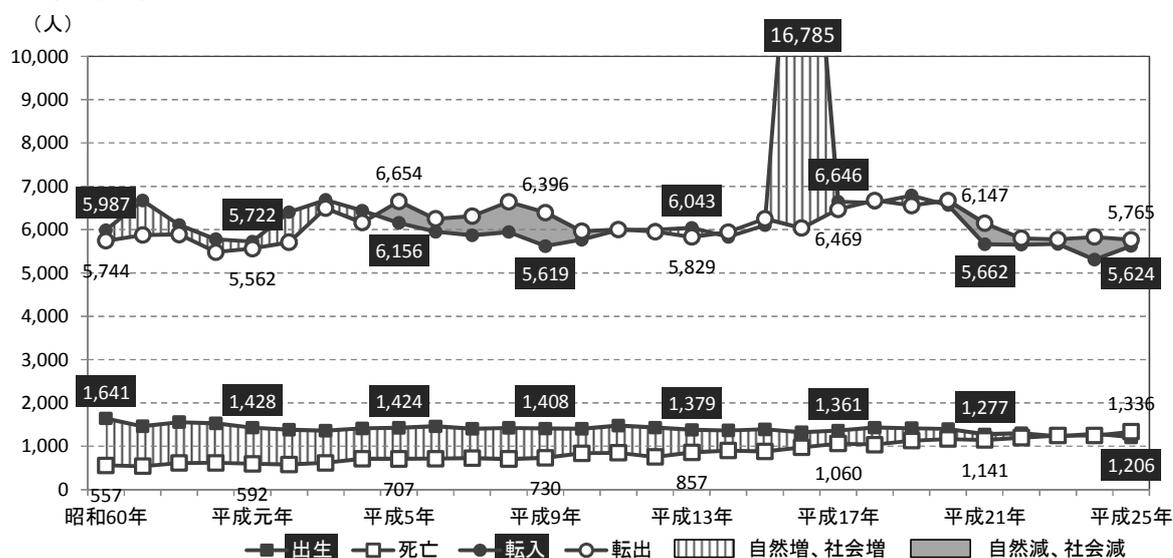
一方、1世帯あたりの人員は減少傾向が進んでおり、昭和40年では4.38人でしたが、平成22年には2.80人となっています。45年間の間に1世帯あたりの人員は約1.5人程度減少しており、世帯規模が縮小していることがうかがえます。



資料：国勢調査、総合計画

② 人口動態

各務原市の人口動態をみると、自然増、社会減となっています。自然動態は平成23年を除いては、すべて増加となっていますが、増加数は減少傾向となっています。一方、社会動態は平成5年以降から減少傾向にあり、平成25年は271人減少しています。

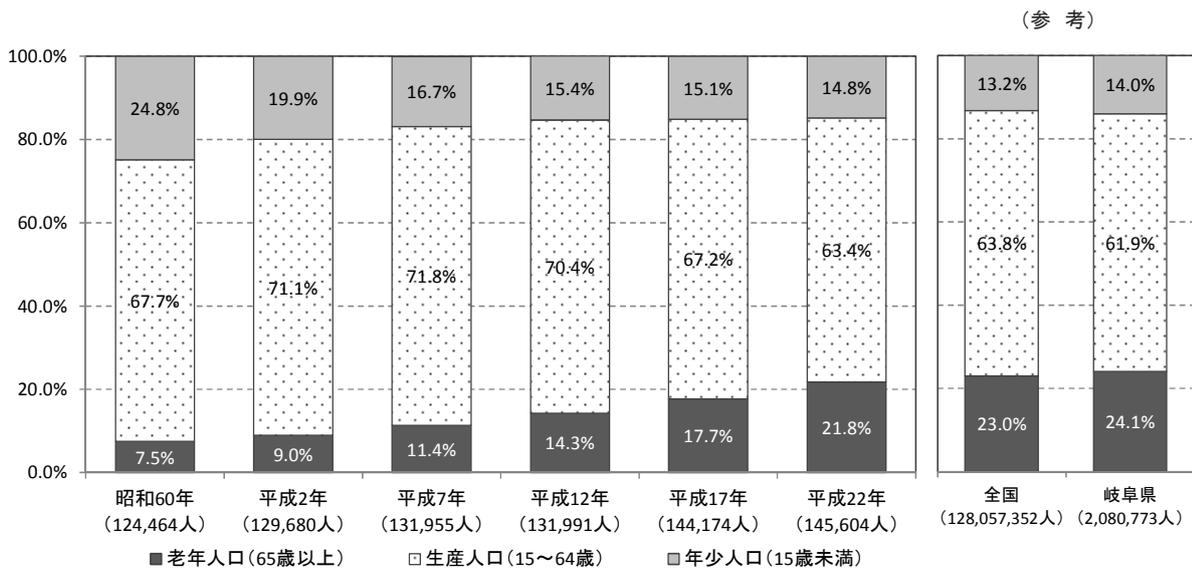


資料：各務原市の統計
※平成16年11月1日川島町と合併

2. 年齢別人口

各務原市の65歳以上の人口が全体の人口に占める割合を表す高齢化率は、平成22年現在、21.8%です。岐阜県全域の24.1%や全国の23.0%に比べると低い状況ではあるものの高齢化は着実に進行しています。

また、高齢化と同時に少子化も進行しており、昭和60年では年少人口（15歳未満の人口の計）が占める割合は24.8%で全人口の1/4程を占めていましたが、平成22年現在は14.8%となっており、ここ25年間で10%減少し、高齢化と併せ深刻な問題となっています。

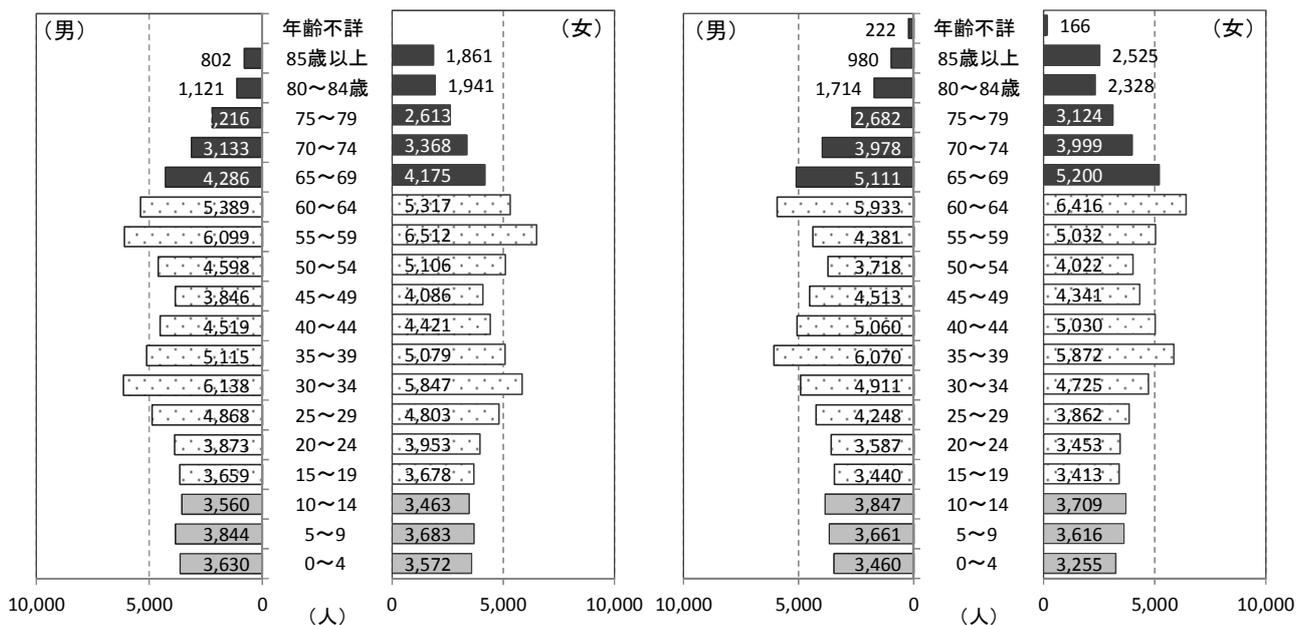


資料：国勢調査

<5歳階級別人口>

平成17年

平成22年



資料：国勢調査

3. 障がい者（児）数

各務原市における障がい者（児）数は、身体障がい者（児）が全体の約 8 割と一番多く、次いで知的障がい者（児）、精神障がい者（児）の順となっています。身体障がい者（児）の内訳をみると、「肢体不自由」が最も多く、次いで「内部障がい」が多くみられます。

また、身体障がい者（児）、知的障がい者（児）、精神障がい者（児）の人数及び人口に占める割合を表す人口比率は、すべてにおいて増加しています。

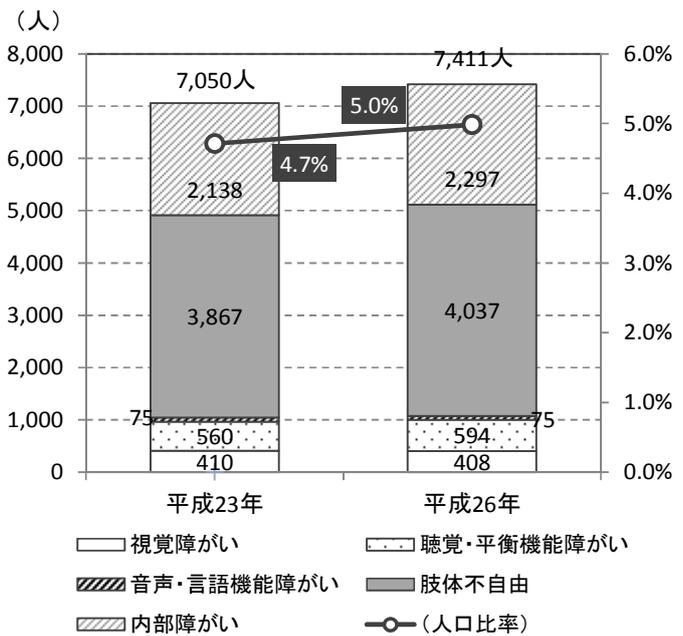
＜障がい種別人数＞

（平成 26 年 4 月 1 日現在）

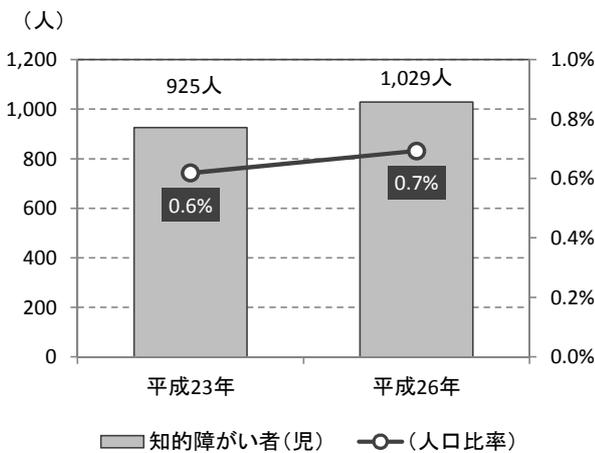
種 別		人 数
身体障がい者（児）	視覚障がい	408 人
	聴覚・平衡機能障がい	594 人
	音声・言語機能障がい	75 人
	肢体不自由	4,037 人
	内部障がい	2,297 人
	小 計	7,411 人
知的障がい者（児）		1,029 人
精神障がい者（児）		796 人
合 計		9,236 人

資料：社会福祉課

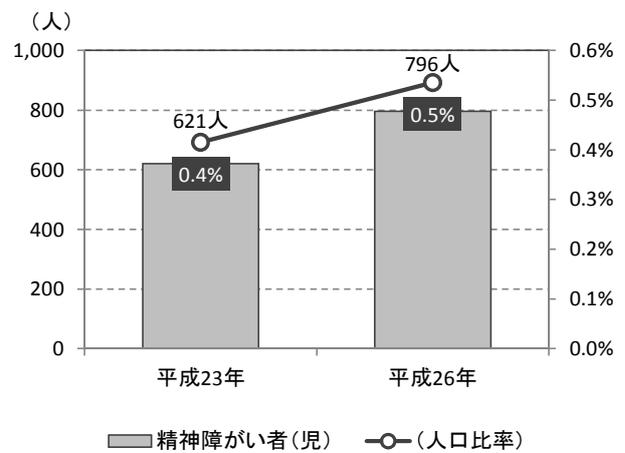
＜身体障がい者（児）数の状況＞



＜知的障がい者（児）数の状況＞



＜精神障がい者（児）数の状況＞



資料：社会福祉課

4. 公共交通

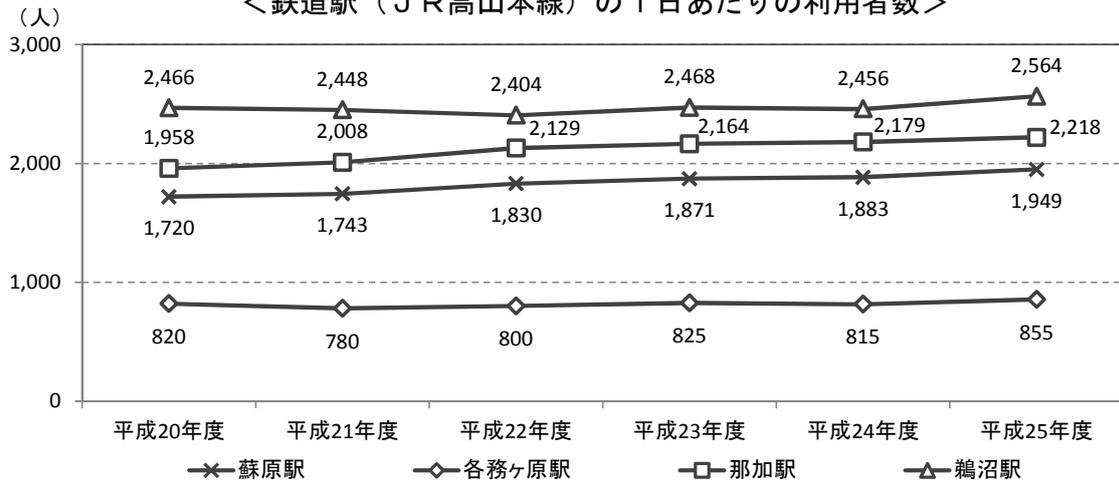
① 鉄道

各務原市には、名鉄各務原線と JR 高山本線を合わせて 16 駅が立地しています。各駅の利用者数は、JR はどの駅についても増加傾向にあります。名鉄は駅によって増減が異なります。

平成 25 年度において、市内全 16 駅の中で 1 日平均利用者が 3,000 人以上の駅は多い順から新鵜沼駅 (10,511 人)、三柿野駅 (4,826 人)、各務原市役所前駅 (3,832 人)、新那加駅 (3,262 人)、名電各務原駅 (3,160 人) です。

JR 高山本線の駅においては 1 日平均利用者が 3,000 人以上の駅はありません。

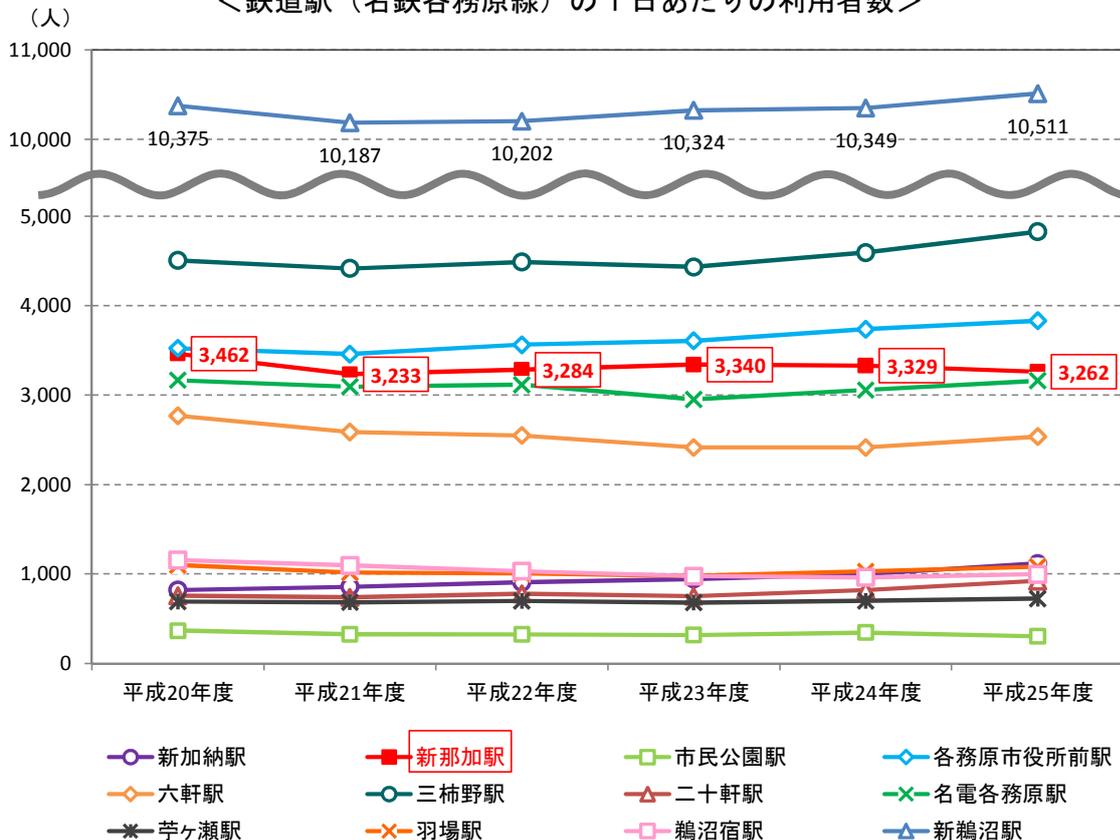
＜鉄道駅（JR 高山本線）の 1 日あたりの利用者数＞



(1 日あたりの利用者数 = 年間乗車人員 ÷ 365 日 × 2 で算出)

資料：各務原市の統計

＜鉄道駅（名鉄各務原線）の 1 日あたりの利用者数＞



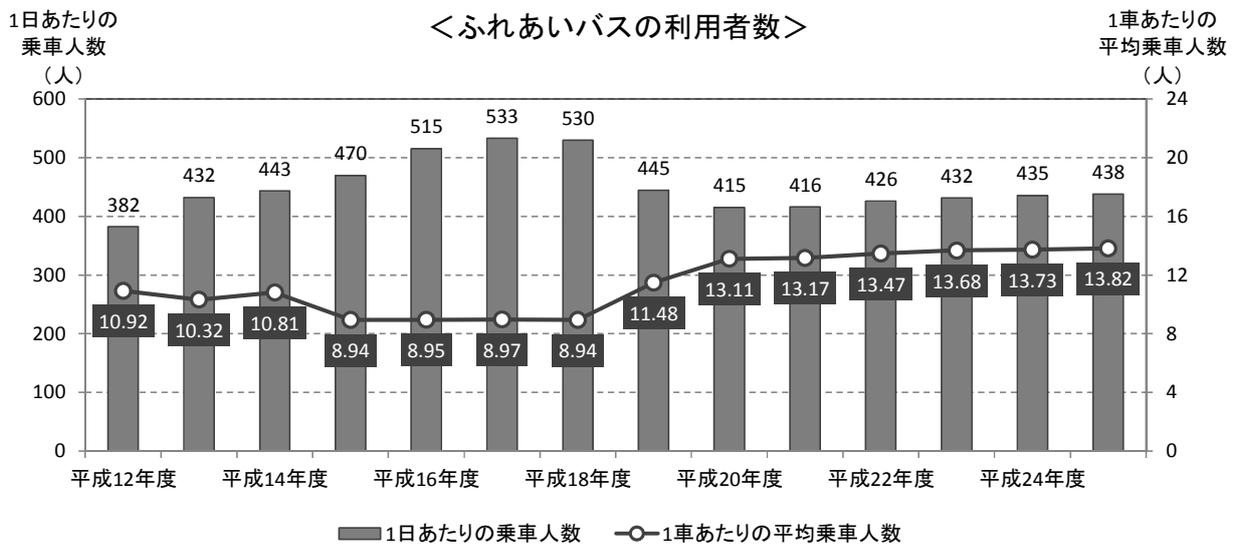
資料：各務原市の統計

② バス

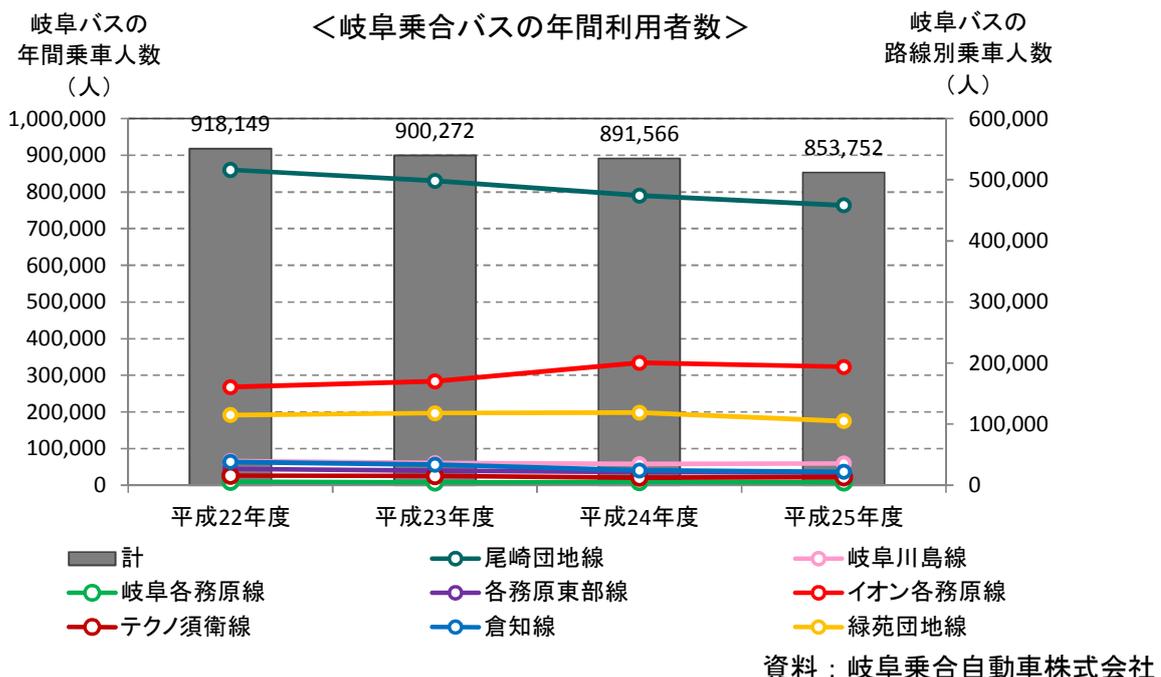
各務原市では、平成 12 年 6 月から運行を開始した「ふれあいバス」と岐阜乗合自動車株式会社が運行する「岐阜乗合バス」が走行しています。

「ふれあいバス」は、平成 19 年 7 月に平日路線全面改正及び休日線の見直しを行いました。1 日あたりの乗車人数は減少したものの 1 車あたりの平均乗車人数は年々増加傾向にあり、平成 25 年度は 1 車あたりの平均乗車人数は 13.82 人となっています。現在、ふれあいバスの見直しを実施しており、平成 27 年 10 月からは見直されたルートで運行を開始する予定です。

「岐阜乗合バス」は、年間の乗車人数が年々減少傾向にあり、平成 25 年度の乗車数は平成 22 年度から約 6 千人減少し、853,752 人となっています。路線別に見ると、イオン各務原線については若干の増加傾向となっています。



(1日あたりの利用者数＝年間乗車人員÷365日で算出)
 ※ただし、平成 12 年度は 6 月からの運行のため、304 日で除している
 資料：商工振興課



5. 公共公益施設

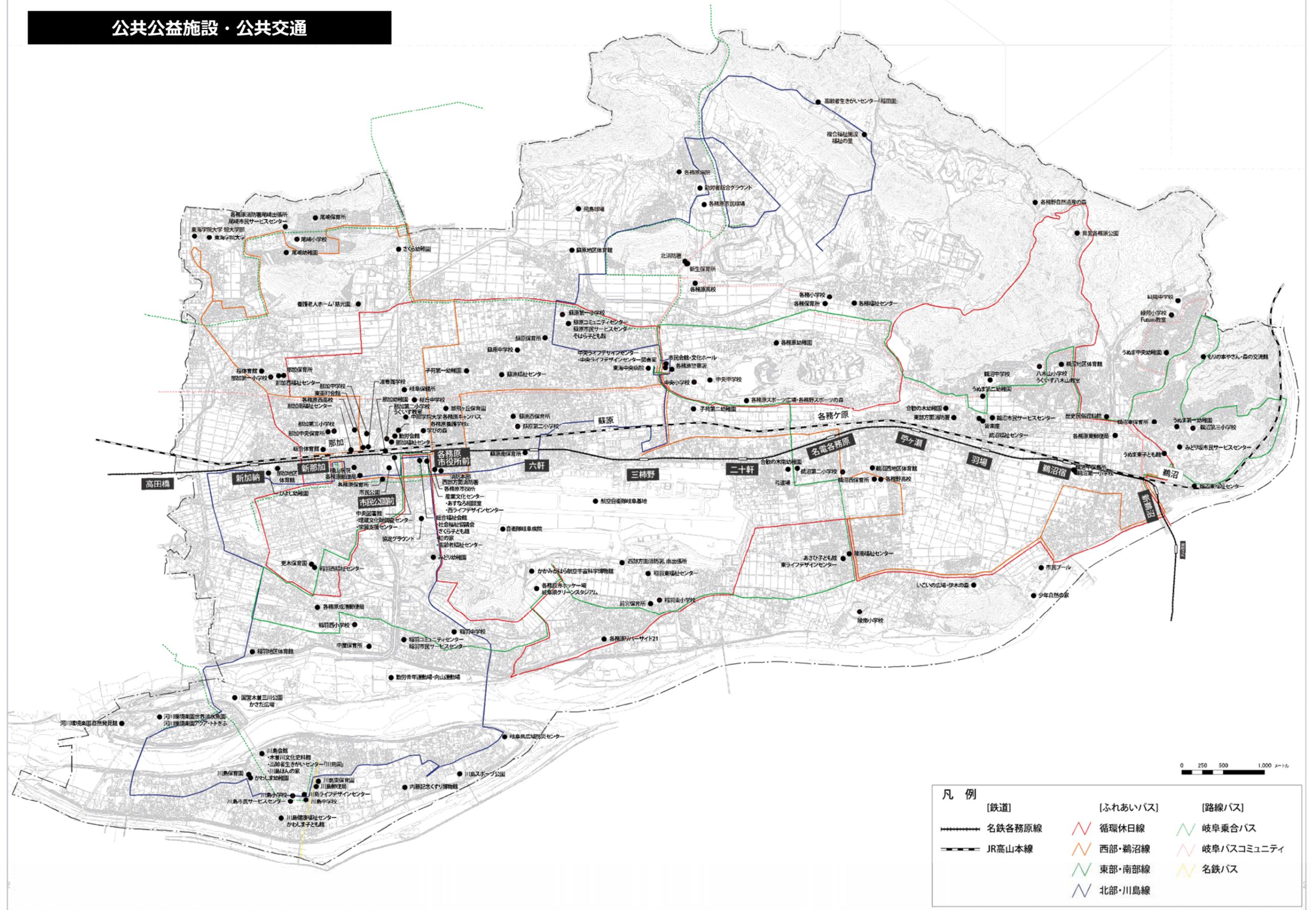
各務原市における公共公益施設および公共交通は次頁のとおりです。

公共公益施設の分布状況を見ると、那加地区にあたる「各務原市役所前駅」「市民公園前駅」「新那加駅」「那加駅」の駅周辺は、不特定多数の人が利用する、公共公益施設が集中して立地しています。また、医療・社会福祉施設等は市内に広く分散して立地している状況ですが、バス路線により移動手段が確保されていることがわかります。

新那加駅周辺においては、南側は商店街をはじめ、郵便局、病院などの市民の生活に必要な施設である生活利便施設が多く、北側は総合体育館や学校、福祉センター、保育所など文教施設が多く集積し、不特定多数が利用する施設が立地しています。

なお、総合体育館や学校施設に併設する体育館等は、災害時における周辺住民の避難所に指定されています。

公共公益施設・公共交通



凡例		
[鉄道]	[ふれあいバス]	[路線バス]
名鉄各務原線	循環休日線	岐阜乗合バス
JR高山本線	西部・鷺沼線	岐阜バスコミュニティ
	東部・南部線	名鉄バス
	北部・川島線	